

2019年度事業活動報告

I 食のセーフティネット事業（食料支援）

生活困窮世帯への宅配による定期的な食料支援と、連携機関との情報交換を継続して実施し、延べ2759件、約24トンの食品を宅配便でお送りした。また、緊急的に食料が必要な方のために、行政等を通して直接手渡しする緊急食料支援では、109回、約2トンの食品を提供しました。

1 個人宅配

- (1) 連携する機関からの申請により、食料支援が必要な方へ1ヶ月に2回（第2・4週）の個人宅配を実施しました。発送した件数は合計で2,759箱、重量は合計で22,998kg（約23トン）となりました。

	件数 (箱)	重量 (kg)
4月	237	1,986
5月	233	1,950
6月	237	1,974
7月	229	1,902
8月	236	1,968
9月	238	1,992
10月	229	1,866
11月	208	1,746
12月	209	1,752
1月	226	1,854
2月	230	1,938
3月	247	2,070
合計	2,759	22,998

- (2) 食のセーフティネット事業とフードバンクこども支援プロジェクトで連携する自治体や団体の担当者へ呼びかけ、「連携機関会議」を実施し、成果や課題を共有し、意見交換を行いました。11市町18名の出席がありました。（2月18日 会場：自治会館）



- (3) 個人宅配には、食品以外にも七夕の短冊や、クリスマス、バレンタインデーカード等を季節に応じて同封し、社会との絆を繋ぐ支援を行いました。心のこもったカード等は、山梨英和中学・高等学校 YMCA ひまわり部の生徒の皆様にて作成いただきました。



七夕の短冊



クリスマスカード



バレンタインカードとチョコ

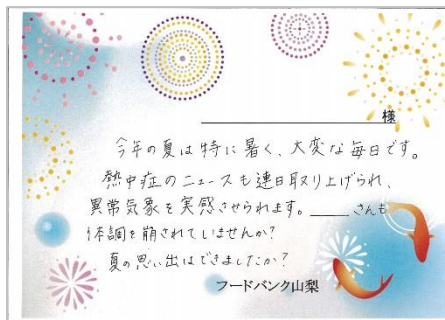
- (4) 電話や訪問による相談の際に提供食品の利用状況を確認し、可能な限り利用者のニーズに合わせるフィードバックをしました。また、食品だけではなく日用品も希望者へお届けしました。
- (5) 新規のボランティアを受け入れ、丁寧な説明を心掛けました。実際に参加することで活動を知り、長期的なボランティア参加にもつながりました。
- (6) 企業・団体の研修を積極的に受け入れ、生活困窮世帯の現状の理解、一人ひとりのニーズに沿った箱詰め体験を通じてフードバンク山梨の活動への関心が高まりました。

2 緊急食料支援

- (1) 個人宅配とは別に、緊急的に食料支援が必要な場合には、自立相談支援窓口や連携団体を通じて直接手渡しをする緊急食料支援を109回、総重量2,200kg（約2トン）実施しました。

3 心の交流と個別ファイルによる情報管理

- (1) 手書きの手紙と「ふーちゃん通信」を交互に入れ、利用者との心の交流や通信での情報提供を行いました。また、手紙と利用者からの返信ハガキのやり取りの中で、必要な食品や日用品の希望を募り、より充実した支援に繋がりました。



いーちゃん通信と手書きの手紙

生活の様子やご希望など自由にお書き下さい

今回もたくさん品物を本当に有難うございます。毎回感謝しながら頂いております。小学5年の息子も「て、有難いね。ボクも大きくなったら、人の為に役に立つ事をしたいね」と嬉しい言葉を言ってくれるようになりました。ウチは一人親家庭を、世の中の一人親家庭にも、生活水準が稼いだと思っておりますが、我が家は驚くような本当に厳しい生活をずっと続けてまいりました。フードバンクさんのおかげで精神的にも助けられ、希望がわいてきます。感謝をいはいと、これから頑張ります。本当にいつも有難うございます。いつか私も助けられる側から助ける側にしたいと願っています。

利用者からの返信ハガキ

(2) 支援経過を個別ファイルに記録・保管し、必要な場合は自立相談窓口と連携し、支援につなげました。

II 生活困窮者自立相談支援事業（自立相談支援）

5市から生活困窮者自立支援事業を受託し、申請書や返信ハガキ等の状況から相談が必要な世帯へ電話やメールでの連絡、食品を持っての訪問等により相談支援を実施しました。

1 生活困窮者への相談支援

(1) 食のセーフティネット事業とフードバンクこども支援プロジェクト利用者について、各市の自立支援相談窓口の依頼、返信はがきの内容、新規利用者の現状記入欄等から、相談支援が必要な世帯への訪問相談支援を行いました。

2 自立相談支援窓口との情報交換

(1) 利用者に食料支援を行う過程や、訪問相談支援で得た情報を自立相談支援窓口と共有しました。また、イベント等の情報を提供することで、利用者にとってより良い支援に繋がるよう連携しました。

Ⅲ 食品ロス削減

「食品ロス削減推進法」の施行を受け、パレット単位での寄贈が増加し、年間の食品取扱量は136トンとなりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により支援世帯数も増加しました。

1 食品の収集と配布

(1) 年間の食品収集量は、136トンでした。

フードドライブ	22,278
ミニフードドライブ 一般食品	24,076
ミニフードドライブ お米	21,824
きずな BOX	6,368
大口寄贈企業	55,894
製パン会社から施設に提供したパン製品	5,592
合計 (k g)	136,032

- ・ 日用雑貨品として、需要が高い洗濯用洗剤・トイレットペーパー・文具等を757kg受け入れました。訪問等で手渡しています。
- ・ 居酒屋や学校給食センターの冷蔵冷凍品・生鮮食品、製パン会社のパン製品について、必要とする登録施設が直接取りに行く方法で寄贈につなげました。

(2) 年間の食品配布量は、110トンでした。

食のセーフティネット事業	22,998
緊急食料支援	2,200
施設配布	39,254
フードバンク子ども支援プロジェクト	24,084
災害支援（新型コロナウイルス感染症支援含む）	14,588
「子ども宅食」への米送付	1,050
製パン会社から施設に配布されたパン製品	5,592
廃棄	913
合計 (k g)	110,679

2 倉庫管理

- (1) 常時10トン以上の食品を保管し、非常時の対応に備えました。
- (2) 農林水産省の「フードバンク活動における食品の取り扱い等に関する手引き」を基準とし、手引きに沿った管理に努めています。

(3) 食品の保管

- ・飯野倉庫屋外にコンテナを設置し、粳と玄米を保管しています。
- ・桃園倉庫を廃止し、おむつ・書類の一部を有野事務所に保管しました。



フォークリフトでの受け入れ



寄贈食品 (倉庫内)



登録施設への食品提供



屋外に設置した米用コンテナ

3 新型コロナウイルス感染症対策緊急支援と災害支援

新型コロナウイルス感染症と台風被害での緊急食料支援として、約44トンの食品をお届けしました。また緊急事態宣言の影響を受けた企業・給食センターから、約1トンの食品を寄贈いただきました。

1 新型コロナウイルス感染症対策 緊急食料支援 (23,313kg)

(1) 子どものいる困窮世帯対象

期間	世帯数	1世帯当たりの重さ	重量 (kg)
第1弾 3月9~13日	709	14kg	9,926
第2弾 3月24~26日	56	4箱×10kg	2,240
第3弾 4月20~27日	751	14kg	10,528
合計			22,694

(2) 企業・団体を通しての支援

	配布先	重量 (kg)	備考
3月27日	NPOホットライン信州	139	送付
4月14日	ホテル従業員 12 世帯分	480	ホテルへ手渡し
合計		619	

(3) 学校給食センター（臨時休校に伴う給食の食材寄贈）

受渡し日	寄贈元	主な寄贈品	重量(kg)	受取り施設
4月8日 ～13日	市川三郷町学 校給食センタ ー（三珠、市 川大門、六 郷）	冷凍肉、野 菜、苺等	375	4施設（高齢・ 障害・教会）
4月22日		マヨネーズ、 すりごま等	10	1施設 （児童養護）
5月7日		鮭切身、ブリ 切身	30	1施設 （障害）
4月15日	中央市学校給 食センター	魚切身、おろ ししょうが	79	1施設 （障害）
合計			484	

(4) 外出自粛、緊急事態宣言の影響での売上減による寄贈

寄贈日	寄贈元	寄贈品	重量 (kg)	備考
4月15日	居酒屋	米、精肉、野 菜等	50	閉店のため。1施 設（障害）へ配布
4月16日	美術館	菓子	26	緊急食料支援で活 用
4月23日	土産物店	菓子 100 箱	400	
5月1日	ゴルフ場	景品 100 箱	115	
合計			591	

2 台風被害 緊急食料支援（2,121kg）

月日	被害	支援先	重量 (kg)	内容
9月20日	千葉県 台風15号	フードバンク ちば	851	水、防災品、缶 詰、日用品
10月16日	長野県 台風19号	ホットライン 信州	970	水、防災品
10月16日	宮城県 台風19号	フードバンク いしのまき	600	水
合計			2121	

IV ボランティアの参加促進

1 ボランティア参加の促進

- (1) 毎週水曜日午後をボランティアタイムに設定し、ボランティア活動年間予定表を作成しました。また、企業や行政からボランティアを積極的に受け入れました。
- (2) フェイスブックで活動の様子を掲載し、ホームページやチラシ等で新規参加呼びかけを行ないました。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の影響により、3月下旬から当面の間、受け入れを見合わせています。

2 ボランティア交流会の実施は、ボランティア当日作業後の交流にとどまりました。



V フードバンクこども支援プロジェクト

夏休みと冬休みの子どもの欠食を防止し、健やかな成長をサポートするため「フードバンクこども支援プロジェクト」による食品宅配を夏に2回、冬に1回実施しました。夏・冬合わせて延べ1279世帯（子ども2709人）に22,992kg（22トン）の食料支援を行いました。

小林製菓株式会社と連携し、「フードバンクこども支援プロジェクト」の一環として母子家庭支援の「青い鳥こども支援プロジェクト」を推進しました。

1 フードバンクこども支援プロジェクトの実施

(1) 夏休みの食料支援

行政機関から申請のあった65世帯と、連携する南アルプス市、笛吹市、中央市、大月市、都留市、山梨市、上野原市、昭和町の学校から572世帯の申請で、合計637世帯に対して、7月末～8月の間、2回の食料支援を実施しました。申請情報をもとに各家庭の人数や年齢等の状況を見ながら配送する食品の品目を決定し通信を添えて宅配しました。

2019年夏 フードバンクこども支援プロジェクト	
支援世帯数	637 世帯
19才以下の子どもの人数	1342 人
母子世帯数	502 世帯
食品発送回数	1274 回
学校からの申請世帯	572 世帯
支援食料数	15.2 トン
延べボランティア参加数	425 名

- ・第1回目の箱詰めは、「スタートイベント」として、学生や企業、市民の皆様約197名が参加されました。議員、市長等行政関係者の出席もあり、箱詰め作業を行いました。（7月24日 会場：県立白根高等学校）



ボランティア約200名の箱詰め作業



多くの学生ボランティア

- ・第2回目の箱詰め作業は、フードバンク山梨飯野倉庫にて数日かけて行いました。毎回20名程の市民・学生・企業ボランティアに参加いただき、作業を実施しました。

(2) 冬休みの食料支援

642世帯への食料支援を実施しました。また、子どもたちにクリスマスプレゼントとしてギフト券をお送りしました。

2019年冬 フードバンクこども支援プロジェクト	
支援世帯数	642 世帯
19才以下の子どもの人数	1367 人
母子世帯数	507 世帯
食品発送回数	642 回
学校からの申請世帯	556 世帯
支援食料数	7.7 トン
延べボランティア参加数	300 名

- ・箱詰めを行うラッピングセレモニーでは、ボランティア延べ300人が集まり、食品とクリスマスプレゼント（ギフト券）を箱詰めしました。協賛企業やスクールフードドライブ参加機関にはセレモニーにおいて、日頃の感謝を伝えました。また、メディアの取材があり、活動への周知につながりました。

(12月22日 会場：県立甲府西高等学校)

(3) 利用者の声（一部抜粋）

- ・食費が浮いた分、子どもの日用品にあてることができます。
- ・箱が届いた時、子ども達と声をあげて喜びました。
- ・箱を開ける時の子ども達の嬉しそうな顔が忘れられません。
- ・お米が毎回入っていて、食べ盛りの子どものには本当に助かっています。
- ・いつも支援していただいてありがとうございます。おかげで凄く安心します。
- ・箱の中に商品券が入っていたので子ども達に好きなおもちゃを買うことができました。
- ・いただいたホットケーキミックスで子ども達と一緒に作りました。ニコニコしている姿を見ると私もすごく嬉しいです。
- ・普段帰宅が遅く、ご飯を作ったりするのが大変な時、送っていただいた食品がとても助かりました。

2 利用者交流会開催

(1) 毎日子育てや仕事、家事を頑張っている母親を対象に、「ママンカフェ」を開催しました。大人13名、子ども24名、合計37名の参加となりました。大人は自分らしく生きること、前向きに捉えること等についての講演会に参加し、子どもは別室でハンドベル教室を行いました。美味しいお弁当と温泉、食品や日用品のお土産付きで心も体も癒す一日となりました。

(1月26日)



講演会の様子



子ども達のハンドベル教室



ホテルの昼食会

3 新たな自治体との連携

(1) 南アルプス市、笛吹市、中央市、大月市、都留市、山梨市、上野原市に加え、新たに昭和町と「子どもの貧困対策連携協定」を締結しました。

4 教育委員会との連携強化・推進

(1) 教育委員会を通じて90校の学校と連携しました。また、学校を通じての申請件数として、556世帯(全体の87%)の食料支援を行いました。

5 楽しい経験の機会を創出

(1) バーベキュー

キープ協会へご招待いただき、山梨交通の協力による送迎で、11家族21名が参加しました。自然散策や箸作り、お肉たくさんのお肉のバーベキュー、おやつには濃厚なソフトクリームもいただきました。美味しい食事と初めての体験を通して夏休みの思い出に残る一日となりました。(7月22日)



キープ協会のボランティア



たくさんのお肉の昼食



自然散策

(2) スポーツクラブとの連携

ヴァンフォーレ甲府から試合観戦チケット100枚のプレゼントをいただきました。白熱した試合を間近で観戦することができ良い思い出となりました。

(3) 「くれよんひろば」の開催

夏休みに甲府市と南アルプス市、冬休みに都留市と甲府市で、学習支援「くれよんひろば」を開催しました。午前中は講師ボランティアに宿題を中心に勉強を教えてもらい、昼食にはデザートや主食を自身で作る等食育の機会を設けました。マジックやパペットセラピストによる教室等多彩な機会を提供しました。



パペット教室



宿題の書道



おにぎらず作り

VI 乳幼児応援プロジェクト

2016年にフードバンク山梨の食料支援を利用する約550世帯を対象にアンケート調査を行い、約3割の回答者は子どもが乳幼児期から厳しい生活状況にあることがわかりました。「ミルクを薄めて飲ませた」「おむつの交換回数を減らした」等、ミルク・おむつが不足した経験がある世帯は約4割でした。ミルク・おむつ・食品が不足することなく健やかに育つことを目的に、春・秋の2回「乳幼児応援プロジェクト」を実施しました。

1 春の乳幼児応援プロジェクト

- (1) 行政・山梨県保育協議会と連携し、甲府市総合市民会館にて第2回乳幼児応援プロジェクトを開催しました。参加者は26世帯、79名でした。市

民・企業からミルク175缶・おむつ280パックのご寄付をいただき、参加された皆さまにミルク・おむつ・食品をお渡ししました。

- (2) 各団体と協力し、法律相談、歯科相談、健康相談等のブースを設けました。また、ちびっこはうすの遊びの広場、ピエロによるバルーンアート、子ども食堂「なないろカフェ」での食事等、子ども達が楽しめる場を提供しました。
- (3) 当日会場に足を運ぶことが難しい方に対し、キャラバンとしてミルク・おむつ・食品をお届けしました。



ミルク・おむつ



遊ぶ子ども達



法律相談

2 秋の乳幼児応援プロジェクト

- (1) 山梨県保育協議会と連携し、南アルプス市桃源文化会館にて第3回乳幼児応援プロジェクトを開催しました。参加者は24世帯、81名でした。市民・企業からミルク92缶、おむつ292パックのご寄付をいただき、参加された皆さまにミルク・おむつ・食品、洗剤や鍋等の日用品もお渡ししました。

- (2) 第2回乳幼児応援プロジェクトで連携した弁護士による法律相談、医師による健康相談、歯科による歯科相談・検査に加え、新たに助産師による子育て相談、専門家による家計相談のブースを設けました。また、子ども達が楽しめるよう、ちびっこはうすによるお楽しみブースを設けました。



ミルク・おむつの無料配布



全体の様子



家計相談

- (3) 当日会場に足を運ぶことが難しい方にはキャラバンとしてミルク・おむつをお届けしました。今回は、市川三郷町社会福祉協議会、上野原市社会福祉協議会の2団体に拠点となっていただきました。



市川三郷町社会福祉協議会へ
ミルク・おむつを届ける



上野原市社会福祉協議会へ
ミルク・おむつを届ける

VII 学習支援「えんぴつひろば」

中央市・南アルプス市の2会場で学習支援を実施し、貧困世帯の子どもたちが安心して学び、昼食を食べ、楽しく過ごせる場を提供しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で3月は中止になりました。

中央市は福祉課からの委託で年間38回の開催し、子ども延べ450人、ボランティア延べ481人が、南アルプス市は法人独自で開始し、年間40回、子ども延べ436人、ボランティア延べ386人が参加しました。

1 学習支援教室「えんぴつひろば」

- (1) 中央市では毎週土曜日、南アルプス市では毎週日曜日に学習支援と昼食提供を行いました。

対象：それぞれ該当市内在住で、

①就学援助受給者、②生活保護、準要保護世帯、

③その他支援が必要と思われる世帯の小学3年生から中学生までの子どもを支援しました。

- (2) 受験生(中央市4名、南アルプス市2名)は全員志望高校に入学しました。

- (3) 教員OB、大学生、高校生、経験者に講師を、一般の方に昼食準備のボランティアを依頼して、多くの方々にご協力をいただきました。

- (4) 午後の時間はお楽しみイベント、子どものヒアリング、保護者からの相談支援のために活用しました。



- (5)多くの外国籍の子どもたちを受け入れ、日本語や宿題の支援を行いました。
- (6)子どもたちの生活状況や自己肯定感を問うアンケート、学力を測るためのプリントを行い、結果をもとに個人対応型の支援を実施しました。
- (7)指導後にはボランティアとスタッフのミーティングを開催し、子どもの情報共有をしました。また、研修会・意見交換会を1回ずつ実施し、指導方法や接し方等のスキルアップを行いました。

2 学習支援と合わせてのフードバンクキッチン開催

- (1)食事の準備は調理ボランティアが担当し、みんなで一緒に食事をしました。合わせて配膳と片づけの手伝い、手洗いやマナーの指導等を行い、食育の機会としました。
- (2)休日の欠食を防ぎ、お土産にパンやお菓子、食品を渡しました。
- (3)中央市では朝食を食べてこない子どものため、バナナを用意しました。
- (4)株式会社サンキムラヤ（パン）、株式会社大森畜産（精肉）、どんぐり牧場（鶏卵）からご寄付をいただき、お土産や献立を充実させました。



VIII 寄付活動・広報・助成金他申請

1 寄付管理システムの確立と運用

- (1)寄付管理システムを確立し、運用を軌道に乗せました。今後さらに応用していきます。

2 個人・企業への寄付、入会、遺贈呼びかけの強化

- (1)新たな寄付の仕組みとして、寄付型自動販売機の提案を受け、企業への設置を進めました。さらに、地域に根差した事業を展開する小売電気事業者と提携し、削減量が寄付につながる「フードバンク電気」の取り組みを開始しました。
- (2)遺贈・相続財産寄付への取り組みは進めることができませんでした。
- (3)冬のフードバンクこども支援プロジェクトにおいてクラウドファンディングに取り組み、176名から2,517,000円の寄付が寄せられました。

正会員	個人	52
	法人	16
賛助会員	個人	45
	法人	41
特別法人会員		61

3 広報・認知度アップ

- (1) 寄付を呼びかける専用の WEB ページ（ランディングページ）を新たに制作し、情報発信を強めました。
- (2) 法人会員向けのメールマガジンを開始し、毎月 1 回、活動の様子やボランティア情報をお送りしています。
- (3) ホームページやフェイスブック等多様な SNS を活用し、情報発信に努めました。
- (4) 引き続き積極的なニュースリリースを行いました。テレビ・ラジオ 49 回、新聞 88 回、雑誌・広報誌 5 回の報道・掲載がありました。

4 助成金・補助金申請

- (1) 助成金・補助金申請、・表彰応募に積極的に取り組みました。

助成金 : ドコモ市民活動助成事業

積水ハウスマッチングプログラム

高山弘子基金

山梨福祉財団

愛恵福祉支援財団

赤い羽根「臨時休校中の子どもと家族を支える緊急支援活動」

受賞 : 第 50 回博報賞 教育活性化部門 文部科学大臣賞

第 13 回よみうり子育て応援団大賞

第 13 回シミセイ未来賞

5 講演会・視察の増加

- (1) 県内連携団体等へ講演会実施を呼びかけるチラシを作成しました。
- (2) 企業・行政へボランティアの呼びかけを行いました。
- (3) 講演会が 21 回、視察・研修受け入れが 14 回ありました。

6 県内レストラン等に募金箱設置

- (1) 認知度向上や寄付の増加を目的に、県内の飲食店を中心に募金箱設置していただきました。

IX 組織運営強化

1 職員が働きやすい環境づくり

- (1) 就業規則改訂等により、職員が働きやすい環境づくりを進めました。
- (2) 業務管理システムを見直し、仕事の精度を高めることに努めました。

2 人材育成の取り組み

- (1) 専門団体による組織診断を実施し、運営基盤強化の研修を実施しました
- (2) 外部の講演会参加や視察により得た学びを業務内容改善に反映させました。

3 人事評価制度の充実

- (1) 人事評価項目の内容を精査し、継続しました。

4 理事会運営の充実

- (1) 潤滑な運営のために、理事が参加しやすい理事会日時を設定し、わかりやすく丁寧な資料作りを行いました。

X アンケート調査・政策提言

1 生活困窮世帯の実態把握をするためのアンケート調査の実施

- (1) 生活困窮世帯の現状を過去の生活・就労状況から明らかにする利用者へのアンケート調査を実施し、記者発表により子どもを抱える困窮世帯の実態と課題を社会に発信しました。また、調査で得た状況により、必要な利用者へは相談支援等を実施しました。

2 県内自治体への提案

- (1) 子どもの貧困対策予算確保のための提言等を自治体へ行いました。

3 食品ロス削減推進法の成立

- (1) 全国フードバンク推進協議会へ参画し、全国のフードバンク団体とともに国への働きかけを実施してきた結果、2019年5月24日に「食品ロス削減推進法」が成立し、10月1日に施行されました。
- (2) 食品ロス削減推進法に基づき、内閣府特命担当大臣や農林水産大臣、環境大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣に加え、学識者や食品企業等、様々なセクターの専門家20人で構成される食品ロス削減推進会議が設置され、理事長の米山けい子が委員として出席しました。

